

要安全確認計画記載建築物（防災拠点建築物（第2次指定分））の耐震診断結果の公表

令和6年3月31日版 福島市都市政策部開発建築指導課

■耐震診断結果の総括表 福島市内

震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

所管行政庁	該当施設数			地震(震度6強以上)に対する安全性			工事中	耐震化率
	計	所有者の区分		I	II	III		
		公共	民間	倒壊・崩壊の危険性が 高い	倒壊・崩壊の危険性が ある	倒壊・崩壊の危険性が 低い		
				現行耐震基準未満（耐震改修等の努力義務あり）		現行耐震基準相当		
福島市	9	1	8	2	0	7	0	77.8%
合計	9	1	8	2	0	7	0	77.8%

※ 1つの建築物に対し、診断結果が複数ある場合には、安全性が低い方のランク（Ⅰ＞Ⅱ＞Ⅲ）で集計しています。

※耐震化率は地震（震度6強以上）に対する安全性がⅢの建築物を建築物の総数で除したものです。

要安全確認計画記載建築物(防災拠点建築物)の耐震診断結果(所管行政庁:福島市)

令和6年3月31日現在

■第2次指定

No.	市町村	建築物の名称	建築物の位置	建築物の 主たる用途	災害時の 用途	耐震診断 の方法の名称	耐震診断の評価の 結果	安全性の評価 (Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ)	耐震改修等の予定		備考 (改修予定等の補足)
									内容	実施時期	
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	福島市	福島南消防署杉妻出張所	福島市郷野目字東1-4	消防署	防災対策 拠点施設	一般財団法人日本建築防災協会による「 既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」 (1996年版、2011年版)	Is=0.01 (0.6) q=0.06(1.0)	Ⅰ	集約化を検討	令和12年度完了目標	
2	福島市	さとうクリニック内科・消化器科	福島市方木田字中屋敷1-1	診療所	地域防災 拠点施設	一般財団法人日本建築防災協会による「 木造住宅の耐震診断と補強方法」に定め る「一般診断法」及び「精密診断法」(時刻 歴応答計算による方法を除く。)					建替済み 令和2年5月完了
3	福島市	AXCビル	福島市栄町12-18、12-19の一部、12- 20の一部	物品販売業	避難所	《要緊急安全確認大規模建築物で公表済》		Ⅲ			耐震改修済み 令和元年6月完了
4	福島市	飯坂ホテル聚楽 1期	福島市飯坂町字西滝ノ町27	ホテル	避難所	《要緊急安全確認大規模建築物で公表済》		Ⅲ			耐震改修済み 令和2年2月完了
5	福島市	飯坂ホテル聚楽 2期		ホテル	避難所	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診 断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3 次診断法」(2001年版)	Is/Iso=1.03(1.0) Ctu・Sd=0.63(0.3)	Ⅲ			耐震改修済み 令和2年12月完了
6	福島市	飯坂ホテル聚楽 3期		ホテル	避難所	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診 断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3 次診断法」(2001年版)	Is/Iso=1.00(1.0) Ctu・Sd=0.62(0.3)	Ⅲ			耐震改修済み 令和2年12月完了
7	福島市	飯坂ホテル聚楽 4期		ホテル	避難所	《要緊急安全確認大規模建築物で公表済》		Ⅲ			耐震改修済み 令和2年2月完了
8	福島市	飯坂ホテル聚楽 5期		ホテル	避難所	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診 断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3 次診断法」(2001年版)	Is/Iso=1.16(1.0) Ctu・Sd=0.32(0.3)	Ⅲ			耐震改修済み 令和2年12月完了
9	福島市	医療生協わたり病院(管理棟)	福島市渡利字中江町34	病院	病院	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」 (1996年版、2011年版)	Is=0.122 (0.6) q=0.542(1.0)	Ⅰ	令和9年までの 建替えを目標に 検討中		

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上の主要な部分の地震に対する安全性の評価

震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、 又は崩壊する危険性が <u>高い</u>	II 地震の震動及び衝撃に対して倒壊 し、又は崩壊する危険が <u>ある</u>	III 地震の震動及び衝撃に対して倒壊 し、又は崩壊する危険性が <u>低い</u>
一般財団法人日本建築防災協会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990 年版)		$IS/IS_0 < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq IS/IS_0$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$ $1.25 < C_T \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001 年版)		$IS/IS_0 < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq IS/IS_0$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$IS/IS_0 < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$IS/IS_0 < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq IS/IS_0$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996 年版、2011年版)		$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$
「屋内運動場等の耐震性能診断基準」		$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会「木造住宅の耐震診断と補強方法」に定める「一般診断法」及び「精密診断法」		上部構造評点 < 0.7	左右以外の場合	$1.0 \leq$ 上部構造評点